

学生FDチーム



ニュースレター

2017.3.No.10

東洋大学学長 竹村牧男先生よりメッセージ

学生FDチームの皆さん、今年度も様々な活動を続けてこられたことに深く敬意を表します。これまで着実に実績を積み重ねている「履修相談会」や「東洋 授業への声コンクール」などの企画では、例年に比べ参加者を大幅に増やされ、他に新しい企画等にも挑戦されたことは大変素晴らしい成果です。

FD活動は「授業改善」が主たる目的ですが、

そのことを達成するためには教員のみならず、受講されている学生の皆さんがともに授業を創り上げていくことが不可欠です。

ぜひ学生ならではの視点を大切にし、貴重な意見を発信していただくとともに、この活動がチームの皆さんや企画への参加者にとっても、実りある経験となることを祈念しております。



FD推進センター長 北脇秀敏先生よりメッセージ



学生FDチームは平成26年度よりFD推進センターの公式組織として活動を開始し、現在に至るまで、大学への履修制度の改善提案や、授業紹介冊子の刊行、履修相談会の開催など、目覚ましい活躍を見せています。

本学においてFDが「教職員が協働し、学生の参画を得て、授業内容及び方法を改善し、向上させるために行う各学部及び研究科の組織的な取り組み」と定義されているとおり、教

育の質の向上を議論する上で、学生の参画が今後より一層肝要となることは言うまでもありません。学生のための学びであり、学生のための教育であることを全ての原点として、学生FDチームの継続的発展に向けた支援と積極的な対話を続けていきたいと考えます。

学生FDチームのみなさんに敬意を表するとともに、今後の更なる活躍に大きな期待を寄せています。

CoNtENTS

- 1.....東洋大学学長 竹村牧男先生よりメッセージ
- 1.....FD推進センター長 北脇秀敏先生よりメッセージ
- 2.....先輩による履修相談会
- 2.....学生FDサミット2016夏in札幌大学 & FDワークショップin法政大学
- 2.....学生FDチームスタッフ大募集中!!
- 3.....特集 先生インタビュー！ in 川越(藤松先生)
- 5.....第4回 東洋 授業への声コンクール
- 6.....学生FDチーム代表よりメッセージ

今年も開催！先輩による履修相談会

4月7日(木)、8日(金)に、白山キャンパス・ナレッジスクエア内の学修支援室にて、先輩による履修相談会を開催しました。

授業の履修の組み方は、その後の大学生活を有意義に過ごせるかどうかにも深く関係してきますが、新入生は、「どのように履修をしたらいいかかわからない」「レポートやテストに関して不安である」「教職や資格などの授業に関する重要な掲示物を見落としていないか」などという不安を抱えやすく、このような声を毎年多く聞きます。学生FDチームはそのような新入生の不安を解消することを目的として、履修相談会を毎年企画しています。

履修相談会は、今年度で3回目の開催となりました。今回は履修相談会の開催だけでなく、「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WILL」や学生FDチームのニュースレターの配布も行いました。2日間の開催ではありませんでしたが、過去最多の250名以上の新入生が来場しました。



学生FDサミット2016夏in札幌大学 & FDワークショップin法政大学

他大学の学生FDに携わる方と交流するため、また学生FDチームスタッフの知識向上のために学外の企画に積極的に参加しています。今年は札幌大学主催の「学生FDチームサミット2016夏」と法政大学主催の「法政大学第17回FDワークショップ～学生、職員、教員の協働による「大学教育」への取り組み～」に参加しました。

● 学生FDサミット

今回の「学生FDサミット」は、「学びと成長」というテーマで開催され、「学生FDの実践的方法」「理想のカリキュラム」「地域連携と大学間連携」の3テーマで学生・教員・職員による「しゃべり場」が開催されました。大学ごとに規模、理念、文系理系などがそれぞれに異なるため、全国の大学からの学生、教職員が参加するサミットで共通の「理想」を考えることは難しいと感じました。しかし、学生FD活動に携わり、日々感じていることや考えていることをアウトプットする良い機会となりました。様々な問題提起や気づきを得ることができたので、今後は、「自分の大学にそれをどう活かせるか」という視点を大切に企画等を進めていきたいと思います。

● 法政大学第17回FDワークショップ

「法政大学第17回FDワークショップ～学生、職員、教員の協働による「大学教育」への取り組み～」では、芝浦工業大学で実践されている「SCOT(Student Consulting On Teaching)」(学生による授業観察制度)について学びました。SCOTとして長期にわたりトレーニングを受けた学生が、客観的に授業を観察し、学生の声をダイレクトに反映させるこの制度は、共通の学生FD活動において非常に有効であると感じました。東洋大学では、大学の規模やトレーニングの実施体制など「SCOT」そのものの導入は難しいと考えますが、そのような事例を参考にしながら、学生の声をより多く大学に届けることのできる活動を進めていきたいと感じました。



学生FDチームスタッフ大募集中!!

現在、FD推進センター学生FDチームでは、共に学生FD活動に取り組む新スタッフの募集を行っております。

「学生FD活動」とは、学生・教員・職員の三位一体で、大学生活の中心である「授業・教育」を改善、向上させようとする取り組みです。この活動は全国的に広がっており、「学生ならではの視点」を活かした活動が非常に重要視されてきています。

東洋大学FD推進センター学生FDチームでは、2014年度より大学の公式な団体として活動をスタートし、新入生のための履修相談会や「先輩によるおもしろ授業紹介冊子WILL」「新入生向けスタディ・チップス」の作成、全国の学生FD団体と交流する全国学生FDサミットへの参加など、精力的に活動を行っております。

「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WILL」やこれまでのニュースレターはFD推進センターHPよりご覧いただけます。

詳しい活動や応募に関するお問い合わせは「FD推進センターHP」もしくはToyoNet-ACEのFD推進センタートップページをご覧ください！

皆さん、私たちと一緒に楽しく活動し、大学での学びを変えてみませんか？

ご応募お待ちしております!!

お問い合わせ先: mlstudentfd@toyo.jp
右のQRコードからもFD推進センター
学生FDチームのページにアクセスできます!!
応募対象: 全学部生・大学院生



FD推進センター学生FDチーム

新入生向けスタディチップス

新入生の皆さん、お気持ちでようございます!!

「おもしろ授業紹介冊子WILL」や「先輩によるおもしろ授業紹介冊子WILL」は、学生FDチームのメンバーが、授業・教育・教職の現場で、学生・教員・職員と協力して作成しています。この冊子は、新入生が大学生活を有意義に過ごすためのヒントになると思います。

東洋大学での学生FD活動は、学生・教員・職員の協働による「大学教育」の改善、向上を目指しています。学生FDチームは、学生・教員・職員の協働による「大学教育」の改善、向上を目指しています。

まず、3つの履修スタイルがおすすめです!!

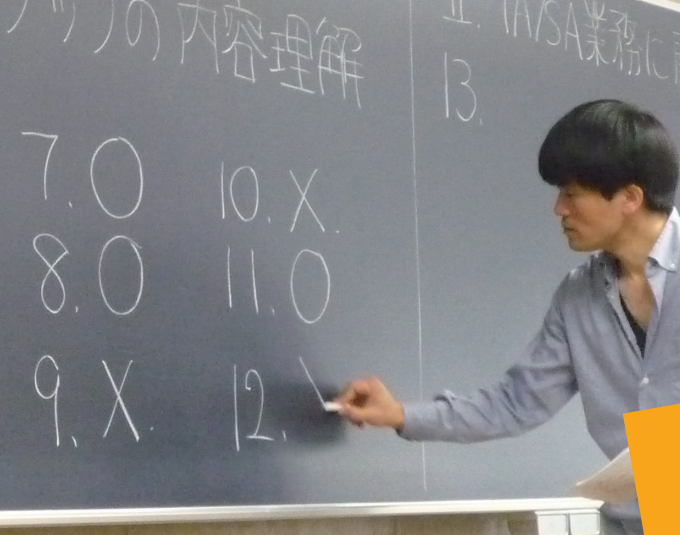
1. 履修 (指導)
2. 履修 (指導)
3. 履修 (指導)

スポンサー 高校とはここが違います!!

時間割	先生	学び方
高校	授業が決められた時間割がある	授業時間外にも、授業・生活指導を受ける「指導」を受ける
大学	自分で決めることができる	授業時間外にも、授業・生活指導を受ける「指導」を受ける

自分の興味・関心に基づいて履修を選択できる。授業・生活指導を受ける「指導」を受ける。授業時間外にも、授業・生活指導を受ける「指導」を受ける。

大学生活は、自分で決めることができる。授業・生活指導を受ける「指導」を受ける。授業時間外にも、授業・生活指導を受ける「指導」を受ける。



特集

先生インタビュー！ in 川越

(理工学部 藤松先生)

学生FDチームは昨年度、授業の魅力を多くの学生に伝え、学生の授業への主体性を高めるために「先輩たちによるおもしろ授業紹介冊子WILL」を発行しました。今年度はその特別編として、FD推進委員会委員の先生へインタビューを実施しました！

インタビュー対象者：藤松 信義先生(理工学部 機械工学科)

(インタビュアー：学生FDスタッフ3名、FD推進支援室職員1名)

日時：2017年1月20日(火)

場所：白山キャンパス8号館学長室会議室(テレビ会議システムを利用)

Q1. 藤松先生の受け持っている授業について教えてください。

機械工学科で「流体力学」の授業を受け持っています。車や飛行機の周囲の空気の流れやエアコン内の流れなど、空気の流れを利用した機械の基礎的な原理や応用を学ぶための講義です。講義の他に、専門科目で学んだ知識を実際に確認する「機械工学実験」の授業も受け持っています。

Q2. 一日のスケジュールはどのようなものなのでしょうか。

毎日同じではありませんが、朝9時前には大学に来て、メールのチェックや授業の準備をしたりしています。その後授業や会議があります。また私の授業を履修する学生から質問を受けたり、ゼミの学生から研究の経過報告や相談を受けたりしながら過ごします。そのようなことを終えて夕方6時以降に自分の時間ができるのですが、最近は事務仕事をしていることが多いです。帰宅はだいたい夜10時以降になります。

Q3. 先生の専攻されている学問分野について教えてください。

航空宇宙工学を専攻しています。子供の頃、いろいろな映画を見たり漫画を読んだりして、宇宙や飛行機に関する憧れから興味を持ちました。単なる憧れから目標が変わったのは、高校見学で、航空宇宙工学について「学べる場」があることを知ったときです。

Q4. 文系学生にとって理系の授業は想像しにくいのですが、先生の考える理系授業の特徴や魅力だとと思われる部分はありますか。

理系の科目、特に私が所属する機械工学科の授業内容は

身の回りにある具体例を示しながら説明できる特徴があります。そして、授業で学んだことをちゃんと実験で確認できるところが魅力だと思います。

授業では、必ず数式を用いて説明します。この数式に従えば、誰が計算しても人の考えに依らず同じ結果が求められることも理系の授業の特徴と考えます。とても難しい数式もありますが、高校までの知識の積み重ねが大学の授業でもちゃんと利用できる、活かせることも、理系ならではの良いところだと思います。

Q5. 藤松先生が授業で心掛けているポイントや工夫されているところなどはありますか。

大事なことを繰り返し説明することです。授業では、その日の内容をダイジェスト的にスライドで説明した後、黒板を使って詳細に解説していきます。最低2回、授業の内容を説明することで、学生が聞き逃す可能性が減る様にしています。さらに重要な点は見やすい資料を作り、何度も説明することで、学生の理解が深まるように心掛けています。

今年度から、英語で専門科目の講義を始めました。英語で専門科目を学ぶことは学生にとってハードルが高いため、初年度の今年は、日本語の講義資料で学生に予習してもらい、授業では英語で聞いてどのくらい理解できたか、演習を通じて確認しました。また近年、大学でもアクティブラーニングの導入が求められています。私が担当する講義の少人数クラスでは、反転授業にも試験的に取り組み始めています。

Q6. 実験はどのようなことをしているのでしょうか。

専門科目の授業で学んだ理論などを実験で確認します。

実験で得られた結果が理論などに当てはまるか図や表を用いて調べて、レポートとしてまとめます。いろいろな理由で実験と理論に少し差がでることがあります。その理由について学生が考えて、説明できるようになることが、学生が実験を通じて身につけるべき重要な点です。

Q7. 藤松先生は他大学でも授業を受け持っています。しゃいですが、他大学の学生と東洋大学の学生で違いを感じるところなどはありますか。

東洋大学の学生は積極性があると感じています。例えば私が受け持った卒業研究の学生は、難しい研究テーマにも恐れずに取り組んでいます。レベルの高い内容でも投げ出さないことに本当にビックリします。学生が国際会議で研究成果を発表したときは、しっかりと発表準備をして、英語での質疑応答に臆せず臨んでいました。他大学の学生にもなかなかできないことだと思います。

Q8. 授業に臨むにあたって心掛けて欲しいことはありますか。

教員は授業で学生の皆さんと15回しか会えませんから、1回1回を大事にして欲しいと思います。授業は「この前ちょっと間違えたから、もう一回やり直して」というようなやり直しはできません。そのため、私としてはしっかり準備して臨んでいるつもりです。授業中、板書の合間に教室をうろうろして学生に話しかけるのも、学生とは限られた時間しか会えないからです。学生もそれに気がついてくれたらいいと思います。

Q9. 東洋大学の学生に足りない部分はありますか。

学生に足りないところを補うのが教員の仕事で、学生のために環境を整えたいと考えます。しかし、学生が何かを修得するために必要な努力の量は学生により異なるので、教員は教えられません。そのため、専門科目の知識や英語の語学力を修得するまで、諦めずに取り組んでいく気持ちの強さを学生の皆さんに持って欲しいと考えています。

Q10. 藤松先生の今後の展望を教えてください。

学生が社会人になり、高い能力が必要とされる就職先に勤めた際に、他大学の学生に負けないように、より高いレベルの内容を講義する必要があると感じています。そのためには私自身が、学生に必要とされる知識を確実に伝えられるようにしなければなりません。

今期の授業では、2年生向けの講義で、他大学では3年生で講義するような内容も教えました。いままで通りの私の講義スタイルで教えることは難しく、高いレベルの内容を教えるには綿密な準備が必要でした。学生も一生懸命に受講してくれましたが、学生に高いレベルを望むのであれば、教員が適切な講義スキルを修得して、準備することが大切であると感じました。

Q11. 今後東洋大学の学生にどうなって欲しいと思いますか。

過去を振り返ったときに、自分自身を肯定できるように生きて欲しいです。たくさん楽しいこと、苦しいことがあると思いますが、自分の人生を一片も否定することなく、あの時があったから今の自分があると言えることを願っています。

大学にいる教員は電車の駅みたいなものです。学生が電車で、その電車が通過していくようなものですね。一緒にいられるのはある一定期間で、過ぎ去ってしまえば何かのきっかけでしか思い返すことがないので、卒業してからでは気持ちが伝わりません。教員と学生は限られた期間しか一緒にいられないので、私自身が心残りを抱くことがないように過ごして欲しいですし、私自身もそうありたいと思います。

〇インタビューを終えて…

経営学部1年生 大西杏実

高校まではクラス単位で授業があり、先生と話す機会も多く、学校の先生というのは身近な存在でした。しかし、大学の授業では不特定多数の学生と授業を受け、先生と直接話す機会があまりありません。そのため、先生は近寄りた目上の人という印象がありました。今回、藤松先生の話を聞いて、大学の先生も学生のことを一人一人見ている身近な存在であるとわかりました。このようなインタビューをするのが初めてで緊張してしまいましたが、良いお話を聞くことができました。

経営学部1年生 河名理緒

インタビューをして、私の授業に対する考え方が変わりました。今までは1回くらいなら授業を欠席してもいいと思っていましたが、これからは15回しかない授業の1回1回を大切にしようと思いました。藤松先生の「学生の足りないところを補うことが先生の仕事」という言葉がとても印象に残りました。学生のことを考え、授業の工夫をするなど藤松先生の努力が学生からの人気につながっているのだと思いました。私は文系の学部には所属していませんが、藤松先生の授業を実際に受けてみたいと思いました。



第4回 東洋授業への声コンクール

今年も質の高い作品が勢ぞろい！

今年で4回目となった「東洋授業への声コンクール」。今回は「あなたの視野・世界が広がった授業とは」というテーマで作品を募集しました。大学の授業を受けて視野が広がった！新しい世界が見えた！という経験がある人は多いと思います。今年度は32作品の応募があり、教職員の方々と審査会を実施し、以下の作品が表彰されました。

なお、紙面の都合により散文部門の入選作品は冒頭部分のみ掲載しております。

全文はFD推進センター HPよりご覧ください。



←FD推進センター HP

〇韻文部門入賞作品

最優秀賞 「学びから得た新たなもの」 **新井裕美**さん(法学部法律学科2年)

講義から 新たな視点を 発見し 不意に感じる まさに無知の知

優秀賞 「専門以外の知識」 **高山英里**さん(経済学部総合政策学科1年)

「なぜ？なぜ？」と 突き詰め導く 政策で 他分野までの 知識獲得



表彰式・座談会出席者



座談会の様子

〇散文部門入選作品

最優秀賞 「迷悟のすすめ」 **泉光太郎**さん(文学部2部教育学科3年)

「迷悟」迷いのなかに悟りがあり、悟りのなかに迷いがあるということ。これは私にとって…(続きはHPへ)

優秀賞 「社会福祉学基礎演習から知りえた世界」

私が今一番視野や世界が広がったと思える授業は、ゼミナールと講義形式の両面を併せ持った「社会福祉学基礎演習」である。私は今年度より…(続きはHPへ)

〇特別賞

FD推進センター長賞

「法学を学ぶということ」 **鈴木崇之**さん(法学研究科公法学専攻 博士後期課程1年)

大学に入学したばかりの私は、法学を、法を学ぶこと、つまり、法令や判例を覚え、具体的事件に適用していくことだと思っていました。試験やレポートも…(続きはHPへ)

学生FDチーム賞

「視野の拡張を促した講義について」 **木崎拓弥**さん(文学部日本文学文化学科3年)

私の視野を広げた講義は二つある。「映像文化論」と「近現代日本文学史」である。いずれも日本における…(続きはHPへ)

今回は「あなたの視野・世界が広がった授業とは」というテーマでたくさんのご応募をいただきました。年々、応募者が増えていくことを嬉しく思います。大学での「学び」の目的の一つは、正解のない問題に対していかに対応するか、その知恵を身に付けることにあります。自らの視野・世界を広げることはその重要な要素となります。最優秀賞の作品は、授業等を通じて、新たな知識→自分自身との対話(振り返り)→あらたな視野・世界の獲得という流れを感じさせます。今後も、こうした流れを促進する授業を心がけていきたいと思います。応募者のみなさん、ありがとうございました。

千明 誠 先生(FD推進委員会 教育改善対策部会長)

新たな知識を得る、技術を修得することは当たり前のことのように感じますが、得た知識、技術から「新しい世界」が広がるがあります。この「世界が広がった瞬間」を感じた時、私は「その授業を受けて良かった」と感じます。授業に積極的に参加し、担当の先生方とともに授業を作り上げれば、知識の先にある「新しい世界」を発見することができると思います。

応募してくださった皆様、本コンクールに協力してくださった教員、職員の皆さま、本当にありがとうございました。

齊藤克弥(学生FDチーム代表)

2017年1月17日(火)に北脇秀敏FD推進センター長、千明誠先生(FD推進委員会 教育改善対策部会長)の同席のもと、表彰式及び座談会を125記念ホールで開催しました。

座談会では「どんな授業が良い授業？」といった内容で議論が行われました。

受賞者からは「対話形式の授業がもっと欲しい」「受講者同士で意見交換を行ったり知識をアウトプットできる授業がもっと増えて欲しい」といったアクティブラーニング型の授業を望む声が多く聞かれました。

先生方からは「双方向授業は受講者が大人数の場合は難しく、LMSの活用がキーになる」「アクティブラーニングは講義形式よりも必然的にインプットの量が減ってしまうので、アクティブラーニング型授業ではどのようにインプットの質と量を担保するか、バランスを考慮しなければいけない」という声がありました。大学という「高度で専門的な学問」を修める場で議論したり、自分の考えを共有してアウトプットするためには知識をどのようにインプットするかや、学生自らがいかに主体的に学んでいくかも重要であると感じました。

学生と教員、双方が授業を作り上げていくという姿勢が「良い授業」であるためには不可欠であると今回の座談会で再確認することができました。

第4回 東洋授業への声 コンクール



これまでのこと、これからのこと。

私は東洋大学入学後、4年間にわたり学生FD活動に携わってきました。この場をお借りして、学生FD活動から感じたこと、そしてこれからの学生FD活動を担う方へ伝えたいことを書き記したいと思います。

4年間続けた「学生FD活動」で、実感したことや、学んだことがいくつかあります。1つ目は「『FD活動』は学生が直接行うことのできるものではない」ということです。「FD」は本来、先生方の先生方による教育改善を指します。しかし、その中心となる「授業」には、当然ながら「学生」が存在しています。学生が授業の「主役の一人」として授業・教育の質向上に学生の視点から参画することが、学生FD活動の意義です。学生FD活動は「学・教・職」の連携の上に成り立つ、教職員へのアプローチが不可欠な活動です。また、学生FDは「学生と大学の橋渡し役」でもあると考えます。学生が直接携わることのできない「FD」だからこそ、私は学生の声をどのように届けるかという「学生視点に立った活動」を常に心掛け、活動続けてきました。

2つ目は「大学を変えることの難しさ」です。東洋大学で開催した「学生FDサミット」において、とある学生から「育ててきた野菜(=活動の成果)を食べられなくてよいのか」という問題提起がなされました。東洋大学学生FDチームは、2015年から大学公式の組織となり、少しずつではありますが認知度も高まってきました。「授業への声コンクール」も4年連続の開催となり、やっと「種から芽が出てきた」状態です。この「芽」が「野菜」になり食べられるようになるのはもしかしたら10年先、20年先かもしれません。この「芽」が健やかに「美味しい野菜」となるか、枯れてしまうかは次の世代の育て方次第です。私は「芽」を出すまででしたが、無限の可能性を秘めた「芽」を育むことができたため、無駄な活動だったとは思いません。

これまで少しマイナスなことを述べており、「なぜ学生FD活動が続けてきたのか」と疑問に思われたかもしれません。「東洋大学が『大好き』だから」。答えはこれだけです。東洋大学が「大好き」だから、大学生活の中心である「授業・教育」から大学を良くしていきたい。その一心で活動続けてきました。活動の第一目的は「自分のため」ではなく、他者(少し先の大学や学生)のため。これが、いつの間にか自分の成長へと繋がっていました。「学生FD活動」の神髄はこのような「自利利他」であると思いま

す。活動を通して得たものはたくさんあります。東洋大学や高等教育に関する知識はもちろんですが、学内外を問わず教え導いてくださった教員・職員・他団体のスタッフの皆さま、尊敬する先輩たちや大切な後輩たち。どれもかけがえのないものです。活動を通して得たものを、大学や他学生のために活かし、それが更なる自己成長を生む。東洋大学が「大好き」である気持ちとこの正の連鎖が、活動を続けられた原動力です。

今後、学生FDに携わる後輩たちに、活動を続けるにあたり大切にしてもらいたいことがいくつかあります。

まずは「理念・活動の柱を受け継ぎ継承していく」こと。チームの設立以来、理念と3つの活動の柱を大切にしてきました。場当たり的な活動で方向性を見失うと、「東洋大学学生FDチーム」の存在意義も薄れてしまうので、この理念と活動の柱の継承は続けて欲しいです。

2つ目は「教員・職員との関係性を大切にすること」です。先ほども述べましたが、「学生FD活動」は「学・教・職の連携」の上に成り立ちます。FD推進委員会の先生方をはじめとして、活動に理解を示してくださる方、興味をもってくださる方、協力してくださる方との関係はしっかり構築し維持して欲しいです。

3つ目は「自分たちの声・思い・考えを大切にすること」です。「学生FD活動」は教員の「FD」に「学生が参画」した活動です。ですからスタッフは常に「学生目線」であることが重要です。授業を受けていて感じたことや気付いたことを自分の中に秘めるのではなく、「声」として発信し、活動につなげてください。

そして、東洋大学を好きでいてください。もし今好きでないとしたら、どうしたら好きになれるかを考えるところからスタートしてほしいと思います。声を出せば変わります。小さな声でも、届け続けることに意味があると思います。私は4年間、充実した、そしてかけがえのない時間を過ごしてきました。活動に関わってくださったすべての皆さま、本当にありがとうございました。

これからの東洋大学と学生の未来が素晴らしいものでありますように。

学生FDチーム代表

齊藤克弥(社会学部社会学科4年)

